

月下美人の花の香りの分析

月下美人の花について、開花からの時間経過により発散される香りの変化を分析し、香り成分の発散量の変化と官能評価に相関があることを見いだしました。

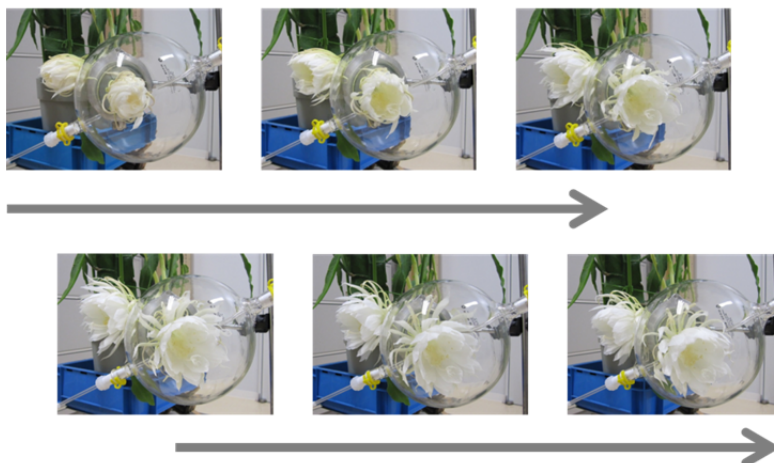
月下美人 (*Epiphyllum oxypetalum*) は、メキシコ南部原産のサボテン科クジャクサボテン属の常緑多肉植物です。花は大輪の白色で、一夜限りの開花で濃厚な香りを発散します。これまで、月下美人の花については詳細なヘッドスペース香気分析が行われていませんでした。そこで今回、詳細なヘッドスペース香気分析を行い、花が発散する香りの解明を試みました。

この研究成果は 2014 年 9 月 20～22 日に開催された第 58 回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会（会場：和歌山大学）で発表しました。

【研究内容の概要】

開花中 DHS (Dynamic Headspace) 法で 8 時間香気捕集し調製した香気濃縮物について AEDA (Aroma Extract Dilution Analysis) を行った結果、15 成分が FD (Flavor Dilution) 1 以上で検出されました。「earthy」な 2-isopropyl-3-methoxypyrazine、「rose spicy」な geraniol、「floral green」な benzyl salicylate が FD 2187 と最も高く、月下美人の花より発散する香気に寄与する重要成分と考えられました。また、花の香りの官能評価の結果、開花後 3～4 時間が最も良好であることを確認しました。この時間帯の揮発性成分について分析した結果、geraniol、benzyl salicylate、methyl salicylate 等が高い割合で検出されました。AEDA で FD1 以上であった成分の経時変化を解析した結果、FD 2187 の 2-isopropyl-3-methoxypyrazine、geraniol および benzyl salicylate を含む 8 成分は、開花後 3～4 時間で発散量が最大となり、その後減少していることを確認しました。さらに、開花後 2～3 または 5～6 時間に発散量が最大となる成分が存在することも確認しました。これらの成分の発散量の変化は官能評価と相関があることを見いだしました。

月下美人の香気捕集



【発表タイトル】 月下美人の花の香気分析

【発表者】大橋輝久、尾曲美緒、石崎享、黒林淑子、駒井強（長谷川香料株式会社総合研究所）